

協会記事

理事会（平成 21 年度第 4 回）

平成 21 年 9 月 15 日（火）17：30～20：15
当協会役員室にて開催。

出席：松田時彦（会長）、長谷紘和（副会長）、野々村邦夫（副会長）、岩田修二、笠原順三、小出 仁、齊藤享治、高村弘毅、伊達二郎、松本 良、以上理事 10 名および野上道男監事。
欠席：小川勇二郎、鳥崎英彦両理事（委任状あり）、および齊藤靖二監事。

I. 議事録の承認

平成 21 年度第 3 回理事会議事録は承認された。

II. 報告

1. 編集委員会報告：笠原理事

(1) 地学雑誌 118 巻 4 号（通常号）は 8 月下旬発行済み。118 巻 5 号（特集号「メタンハイドレート（Part II）—探査と資源ポテンシャル—」）が 10 月下旬ないし 11 月初旬に発行予定。以下、118 巻 6 号（特集号「海洋地殻内熱水循環と地下微生物圏の相互作用」）が 12 月下旬、119 巻 1 号（特集号「日本列島および東アジアの地質構造形成史」）が 2 月下旬、119 巻 2 号（小特集「グローバル気候変動 Part III」）が 4 月下旬に発行予定である。現在、論説・総説・短報ほか合わせて 16 編の投稿論文がある。

(2) Journal@rchive 搭載用に裁断可能な 290 冊を 7 月 16 日に JST に受渡し済み。非裁断分の半分を 9 月 9 日に受渡し済み。残り半分の貸出しは未定。117 巻 1 号以降の J-stage 搭載については、図類の解像度 300 dpi、jpeg フォーマットで埋め込む。本年 11～12 月頃に搭載可能。これらに伴って、ホームページ上の 110 巻以降の目次「本文 PDF」欄のリンク先を J-stage および Journal@rchive とする。一方、J-stage および Journal@rchive では abstract のみの公開はできないので、inpress 論文については、現行どおりとする。

2. 行事委員会報告：岩田理事

(1) 秋季講演会（10 月 17 日）の予定。演題：「極地からのメッセージ—地球温暖化の最前

線を行く—」と演者：武田 剛（朝日新聞東京本社 編集委員）。

(2) 本年度の海外、国内見学旅行の企画を検討中であり、海外見学旅行については中国太行山脈を候補地として考えている。国内については、房総などを検討している。

3. 図書委員会報告：小出理事

9 月 2 日に図書委員会を開催し、以下の方針を立てた。①地学雑誌バックナンバー CD-ROM から閲覧用のコピーを作り、ジャーナルアーカイブ用に JST に貸し出したものが戻ってきたら禁帯出とする。②書架雑誌目録がほぼ完成した。1955 年～1999 年に発行されたものを中心に処分する。また、目録をホームページで閲覧できるようにする。③貴重本（および資料）の電子ファイル化を進める。電子ファイルは原則として、ハードディスクに保存する。④ホームページに、図書委員会のページを設ける（ホームページの全面更新の中で検討する）。⑤前期から実施してきた古典論文紹介は対象を貴重本などにも拡大して今後も続ける（電子ファイル化する本や資料の紹介など）。

4. 広報委員会報告：松本理事

平成 20 年 1 月に電子ジャーナルのあり方を検討する特命委員会が設置されたが、その役割は広報委員会を引き継いでやるか、広報委員会がホームページ全体をみるということであれば、広報委員会と特命委員会が合体してしまえばよいのではないか。いずれにしても、「電子媒体発信を広報の仕事としてもらえればよい」との見解が示され、その方向で検討することとなった。

5. 助成委員会：野々村理事

(1) 委員の引き継ぎと新任委員の任命（委嘱）手続きが終了した。

(2) 平成 20 年度の助成金使用報告が 8 月上旬にでそろった。10 月に委員会を開いて評価を行うこととした。

6. 将来計画委員会報告：齊藤理事

(1) 地球惑星科学連合大会におけるブース展示について検討中。広報委員会が中心になり、編集委員会、将来計画委員会、行事

委員会などが関与して積極的に行うこととなった。

- (2) 同じく、連合大会における協会独自の発表の場を設けるか否かについて検討中。10月26日がセッション等提案の期限であり、いくつかの案はあるが、時間的には今から組織するのは困難である。小出理事から資源地質学会を提案母体とする「二酸化炭素地中貯留に関するスペシャルセッション」の共同提案の可能性が示唆され、具体案を検討することになった。なお、経済的な支援は2,3人分の参加費(一人最大1万円程度)をみることを考えればよい。

7. 渉外委員会報告：齊藤理事

2013年のIGU地域会議(京都)の準備委員会に出席した。財政計画が発表された。仮に、赤字になる場合のことを考えて、各加盟団体に基金を積み立てておくことが要請された。当協会での対応を検討することになった。

8. ジオエキスパート委員会報告：長谷理事

小川理事欠席につき、長谷理事より資料6に基づき、以下2点の報告があった。①10月24日(土)に釧路市立博物館主催の講演会「火山とどうつきあうか=雌阿寒岳・雄阿寒岳(仮題)」に福岡大学理学部の奥野 充氏をジオエキスパート制度により派遣することとなった。②テレビ製作会社から南米ベネズエラのカナイマ国立公園についての専門家紹介依頼があったが、該当者なしとの回答を送った。

9. IYPE 関連報告：松本理事

- (1) IYPE (2007-2009) 締めくくりの式典が11月末にリスボンで開催される。日本から若手の研究者2名が招待されることになった。IYPE 日本事務局より東京地学協会から1名推薦の打診があり、ホームページで公募した後、東京大学に在籍するポスドク研究者を推薦し派遣が決定した。
- (2) 日本の締めくくりの会議(本年度内あるいは来年度早々)として、イベント & セレモニーが計画されている。

10. 庶務委員会報告：長谷理事

- (1) 国際会議(RAEG: Recent Advances in

Exploration Geophysics) および「国際地理オリンピック」へ協賛団体として登録し、協賛金各10万円を支出。

- (2) 会費の長期滞納者について督促状を送り、半数近くの遡及納入があった。

上記(1)に関して、①他団体の催し物への協賛などは、理事会マターとして扱うべきだ。②「その他」の扱いでもよいが、(とくに経費支出を伴ったものは)議題として扱い、事後承認すべきである。③1件当たりの上限と年間の枠を決めておき、そのうえで事後の場合でも議事録に残すべきであるなどの意見が表明された。

Ⅲ. 議 題

1. 会員の入退会について

入会申込者：末岡 茂，長沼佐枝，以上2名の入会が承認された。

退会者：3名の逝去退会者(安斎俊男，南部松夫，山崎謙一)および3名の希望退会者(長井孝一，齊藤常正，三井秀人)があった旨報告された。

2. 第3回評議員会の議題について

10月17日(土)13時から13時40分を第3回評議員会にあて、14時から15時30分を秋季講演会にあてることとなっている。第3回評議員会における議題を、「①ジオエキスパート実績報告」，および、「②会員の(入会)資格条件についての意見拝聴」とすることが提案され、異議なく承認された。

3. その他

- (1) 庶務委員会報告で取り上げられた2件の協賛金支出が承認された。

(2) 臨時委員会として、「公益法人化準備委員会」を立ち上げることが提案され、承認された。委員構成は、長谷，野々村，伊達の3理事，野上監事，事務局長(中尾)とすること，野上監事は委員会の正式メンバーではなく，協会の監事として加わることなどが承認された。

- (3) 次回理事会を11月17日(火)17時30分から役員室において開催することとなった。